

第41回卒業証書授与式 式辞

早春の柔らかな光がここ青山の地に降り注ぎ、校庭の木々が新しい季節の息吹を蓄え始めた今日のよき日に、兵庫県立三木北高等学校、第41回卒業証書授与式を挙行できますことは、本校にとってこの上ない喜びです。



ただいま卒業証書を授与いたしました90名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

また、ご多用の中、ご臨席を賜りましたご来賓の皆様、ならびに保護者の皆様、今日までお子様を慈しみ、本校の教育活動に多大なるご理解とご協力を寄せてくださいましたことに、厚く御礼申し上げます。

皆さんは三年前、期待と不安を胸に、三木北高校に入学してきました。

私はこれまで、式辞や講話のたびに皆さんに「考え、気づき、行動すること」の大切さを伝えてきました。今日、卒業を迎える皆さんの歩みを振り返るとき、私はその言葉を見事に体現した皆さんの姿に、深い感動を覚えました。

特に、自分の進路実現という大きな課題に直面し、誰もが余裕を失いがちな三年生の時期に、皆さんが示した「協働して、他者のために動く熱意」は、三木北高校の誇りそのものだと思います。

理系の皆さんは文化祭で木製ジェットコースターの作成に挑みました。自ら企画を立ち上げ、構造や安全性を一から考え、試行錯誤を重ねながら形にしていったその姿は、まさに本校が大切にしてきた「主体的に学び、協働して課題を解決する力」を体現するものでした。

教室で身につけた理数の知識を、実物の制作という“社会につながる学び”へと発展させたこの経験は、皆さんがこれからの時代を生き抜く力となり、必ずや未来の大きな財産となることでしょう。

また、「総合的な探究の時間」の学年の取組みで、地域の店舗振興のために、暑い夏の日差しの中、何度も足を運び調査を重ねたこと。皆さんの情熱が形となった立派なパンフレットは、三木市長様をはじめとする多くの方々から高い評価をいただきました。

さらに、文系の皆さんを中心に、秋には「服のカプロジェクト」として、多くの保育所や公民館、学校を一軒一軒、訪問して、対面で協力を仰ぎました。その結果、集まった子ども服は六千着を超え、世界で困難な状況にある難民の方々へと届けられました。

自らの進路という「個」の殻に閉じこもりがちな時期であるにも拘わらず、他者と協力し、地域へ、そして世界へと目を向け、自ら行動してやり遂げたその姿勢は、本当に尊いものだと思います。

皆さんは自分たちの行動が、誰かの笑顔や社会の力につながるということを、この三木北高校で証明してくれました。

さて、皆さんがこれから踏み出す社会は、AIが急速に進化し、正解のない問いに溢れた時代です。

膨大な情報や便利な道具に囲まれる中で、私が最も皆さんに伝えたいこと。それは、「AIに埋もれず、AIを賢く活用しながらも、最後は自分自身の意志で判断し、決定できる人間であってほしい」ということです。

どれほど技術が進歩しても、皆さんが、仲間と共に知恵を巡らせ、文化祭の展示物の完成のために妥協を許さず取組んだ粘り強さや、汗をかいて地域を歩き、地元の人々のために行動する奉仕の精神、そして、対面で想いを伝えて集めた「六千着の服」に込められた、「人としての温かさ」は、AIが伝えることはできません。

情報に流されるのではなく、自らの目で見つめ、自らの頭で「思考」し、納得のいく答えを「判断」し、自分の言葉で「表現」する。その血の通った力こそが、これからの不確実な時代を生き抜くための最強の武器となります。

さて、本校は今、大きな歴史の節目に立っています。来年度末をもって、三木北高等学校としての歩みは一つの『集大成』を迎え、その輝かしい伝統は、新たな学び舎に発展的に引き継がれていくこととなります。

しかし、校訓である「立志・自学・自律・共生」の精神は、確固たる指針として、これからも皆さんの内側に生き続けます。三木北高校で磨いたその知性と行動力を信じ、自分の人生を力強く歩んでいってください。

結びに、卒業生の皆さんの前途に幸多からんことを、そして三木北高等学校の精神が、皆さんの心の中で輝き続けることを心から願い、式辞といたします。

令和八年二月二十七日

兵庫県立三木北高等学校 校長 吉田真治



卒業証書授与



卒業生答辞



卒業記念品目録贈呈



学年主任挨拶